

「はあはあ、今日もくみちゃんの大きいお尻は最高だね！
特におマ○にパンツが食い込んでマン肉がハミ出てるよー
デュフフ、おいしそうで涎が出ちゃうよー」

『。。。。』

ギチ♡

ギチ♡





「デユフフ、くみちゃんのおマ○コ、

おじさんの指を二本入れただけでももうこんなにグチヨグチヨだね。

たった二本の指を陰の中で動かすだけでスゲーな音を立てながらこんなにマン汁を垂らして喘ぐなんて

・・・くみちゃんはド変態だなあ。」

あ♡

あ♡

あ♡

ゴキョ

ゴキョ

ムキョ

ムキョ

「デユフフ、なんかくみちゃん喘ぐ顔見てたら興奮して腕に力が入っちゃうよ。
まだ彼氏にも見せたことないそのスケベな顔。。。
デユフフ、おじさんだけに見せてくれるなんて最高だよお！」

「は、激しく動かさなさいでござる。。。い、いっちゃう。。。」



「デュフフ、やっぱりおじさんのデカチ○ポとくみちゃんの大きい尻&どスケべおマ○コは相性がいいね！
まだ激しく動かしてないのに少し挿入しただけでもうこんなに腫で締め付けてきて、
溢れ出すくみちゃんのマン汁でおじさんのデカチ○ポがぬるぬるだよ！」

あっ♡

あん♡♡

「おじさんのやつ大きいから、ゆっゆっ動かしと下せろ。じゃならぬ私のおマ○コ壊れちゃうの。P.P.O.O」

ゴキツッ

ゴキツッ





「デユッフ、こっちの穴も相変わらず締め付けがいいね。

彼氏とのエッチでも決して弄られはしないくみちちゃんの汚いこの穴を、

おじさんなんか指を二本も突っ込んで堪能できるなんて・・・おじさんは幸せだなあ。」

「そ、その穴はだめっ・・・ゆ、指を中で動かさなけりで・・・」

ビクッ

ビクッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ガクガク



「はあはあ、くみちゃんのおマ○コ気持ちいよおー」
くみちゃんが喘ぐ度におじさんのデカチ○ポを膣がぐっつと締め付けてきて
亀頭でくみちゃんの赤ちゃん部屋をソックする度にマン汁が溢れ出てくる！
おじさんは腰を振るのをやめられないよー！」

「そ、そんなに激しく動かしちゃだめえっ！ーまたイっちゃうーまたイっちゃうー！ーまたイっちゃうー！」

あんっ♡

ああんっ♡

あんっ♡

びくっ！

ガクガク

ガクガク

ガクガク

ガクガク

ガクガク

ガクガク

「うっっっ……で……で……」

くみちゃんのおま○コの中、僕の濃いザーメンが30分ほどあけるッ……」

「ぎ、今日は中に田がないので……だめえええっ……赤ちゃんできちゃうっ……」

あんっ♡

ああんっ♡

あんっ♡

ビクッ

ビクッ

ガクガク

ドクッ

びゅんびゅんびゅんびゅん



「はあはあ・・・今日も結局この大きなお尻に負けてたくさん出しちゃったなあ。
デユッフ、くみちゃんのおマ○コの中じや収まりきらなくてサーメン出てきちゃってるね。」

はあっ

はあっ

ビクッ

ビクッ

「はあはあ・・・き、今日は中に出せなそうと聞いてたの・・・」

ガクガク

ガクガク



「デュフフ、相変わらず今日も大きなお尻にサイズの合わない小さなパンツ履いてるね！
少しクロッチ部分をずらしただけでおマ○コ見えちゃうそう♪
まさかスカートの下がこんなドスケベ状態になってるなんてね、
学校生活で万が一クラスの男子や男の教師に見られた日にはどうなっちゃうんだろ・・・
多分みんなくみちゃんの事を種付け用のデカ尻肉便器としか見てくれなくなるんじゃないかな？笑」



「あーっ！よく見たらくみちゃんのおマ○コ、おじさんのデカチ○ポが欲しくてきゅんきゅんしてるじゃん！
あとちよつと温ってる・・・くみちゃんは下すけべだなあ、デュフフ。」



「デユフフ、くみちゃんの乳首、勃起してるね♪
おじさんの長い下でク○ニされ、ア○ルは指突つ込まれ弄られたせいかな？」

「・・・ち、ちがいます・・・んっ！んっ！」

「デユフフ、我慢しないでいいんだよ？お尻の汚い穴に指突つ込まれて感じちゃったんだよね？
しょうがないよね？お尻の汚い穴の方なんて普段弄らないもんね？」



「あっーくみちゃんのおしっこーいつぱい出るー」
ク〇ニされ続けて、ア〇ル弄られ続けていつちやっただせげかな?」

あんっ♡

「あんっ!ああんっ!お、おしっこが止まらない!」

あんっ♡

「我慢しなくていいんだよ!おじさんがペロペロしてあげる!
くみちゃんの大きな桃尻から出る聖水!おじさんの大好物だよ!!」

パッパッ

グチャッ
グチャッ

グチャッ
グチャッ

あんっ♡

「はあはあ、くみちゃんのその喘ぐ顔を見て声聞いてたらもう我慢できない！おじさんのデカチ○ポはもうギンギンだよ！」

今日は本番なしだと思ってたけどハメハメしちゃううう！！

「あんっーあんっー！お、おじさんの嘘つき！へんたいっー！」

あんっ♡

あん

あんっ♡

ゴキョッ

ゴキョッ

ヒッ
チッ

ヒッ
チッ

「はあはあ、くみちゃんが悪いんだよ？
その顔も声もこのデカ尻もドすけへおママ〇も、
どれもおじさんの種付け欲求を刺激するんだ！
この歩く種付け用デカ尻肉便器めっ！！」



「今日はくみちゃんの赤ちゃん部屋にもたつぷりザーメン注入して分かってやるっ！
今のくみちゃんに人権なんてないって事を分かってやるっ！

今は汚物のように排出される中年男の濃いザーメンを受け止める、
ただの種付け用ドスケベカ尻肉便器だつてことを分かってやるっ！っっ！っっ！

「だめええええ！赤ちゃんできちやうっっっ！」



「はあはあ、すっきりした」

「二週間ぐらい溜まっていたからなあ、すごく濃くて大量のザーメンがくみちゃんのおマ○にた出ちゃったよー」
「デユッフ、もしかしたらおじさんとくみちゃんの赤ちゃんできちゃうかもね」

はあ

はあ

はあ

「はあはあ・・・や、やだあ・・・こ、呼吸するたびにおじさんのザーメンが出る・・・」

「やっぱりザーメンを出すにはこのデカ尻に限るなあ。」

「感度もいいし、いい声で鳴くし」





「デユルフ、今日は大事なフェスの練習中に突然呼びだしてごめんね。なんかくみちゃんが汗だくになって練習する姿、パンチラする姿を見てたらムラムラしちゃってね！」

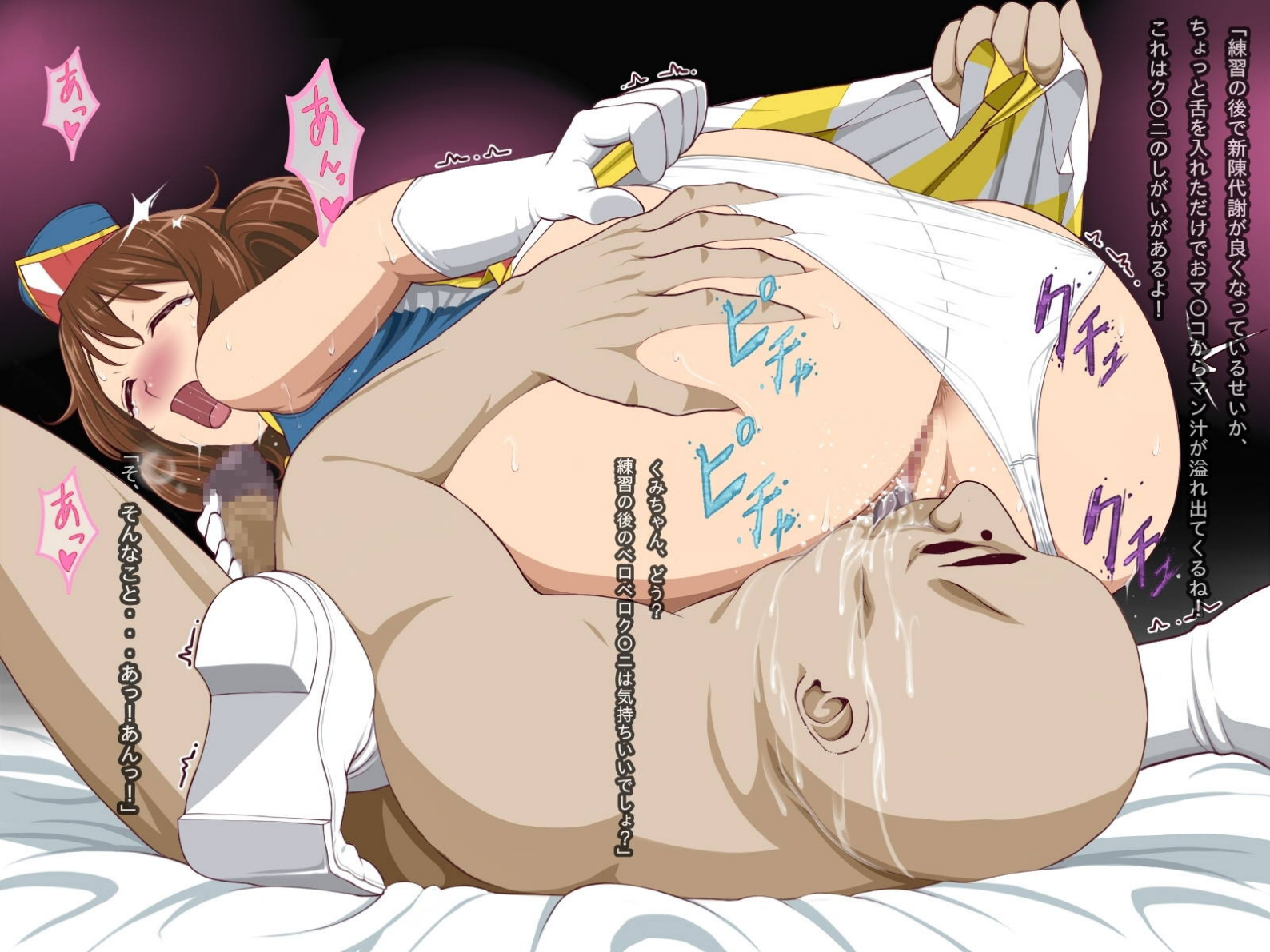
「・・・それにしてもやっぱり練習の後だからおマ○こ蒸れてるね！」

「くんくん、この汗のにおいとおマ○こ独特のにおいが混じった感じがたまらないデユルフ！」

はあ

はあ

「。。。は、はやく終わらせて下さい。練習に戻らないで。。。」



「練習の後に新陳代謝が良くなっているせいか、ちよつと舌を入れただけでおま○こからマン汁が溢れ出てくるね!」
これはク○ニのしがいがあるよ!

くみちゃん ニャー
練習の後のスロスロク○ニは気持ちいいよー!

「そ、そんなこと……あーあんっー!」

あっ♡

あっ♡

あっ♡

ピ○チヤ
ピ○チヤ

クチヤ
クチヤ

「デュフフ、くみちゃんの汗だくデカ尻のおマ○コのおいのおかげで、おじさんのデカチ○ポ、今日はいつも以上にギンギンなんだ。大きくてしゃぶり難いと思うけどがんばってね！」



「おおひふへはひっぽひはひやふふはふふふ... (大きくて先っぽしかしゃぶれないです)」

「それにしてもこの体勢えらいよねくみちゃんはおじさんのデカチ○ポをしゃぶり、おじさんはくみちゃんのアールのしわの数まで見える距離で、この大きな桃尻を揉みながらおマ○コに舌を入れ舐め舐めする♪♪♪」

「♪♪♪しながらも微かに聞こえるくみちゃんの喘ぎ声を聞きながら♪♪♪」

「くみちゃん、しゃぶり難いといえ、もうちょっと頑張ってチのポしゃぶってくれないとおじさん満足できないよ？」
「は、はひ……んっ！」

「デユッフ、ふと考えただけどくみちゃんの友達も家族も学校の先生も、まさか小汚い中年オヤジとこんなド変態なプレイしてるとは思ってもないよね！」

でも実際はしてるよ彼氏でも無い、愛情のかけらも感じない中年オヤジとおまんこを舐められながらチのポしゃぶってるんやん



「けほっけほっーお、おじさんもついだったんでしょ？ーな、なんでまだおマ○こ舐め続けるの？」

クチャクチャ

ガクガク

「デェェェッ、おじさん今日は調子いいんだよー
一回射精しただけじゃ性欲は収まらないよ？」

「だからくみちゃんがいき狂うまでク○こし続けてあげるッ」

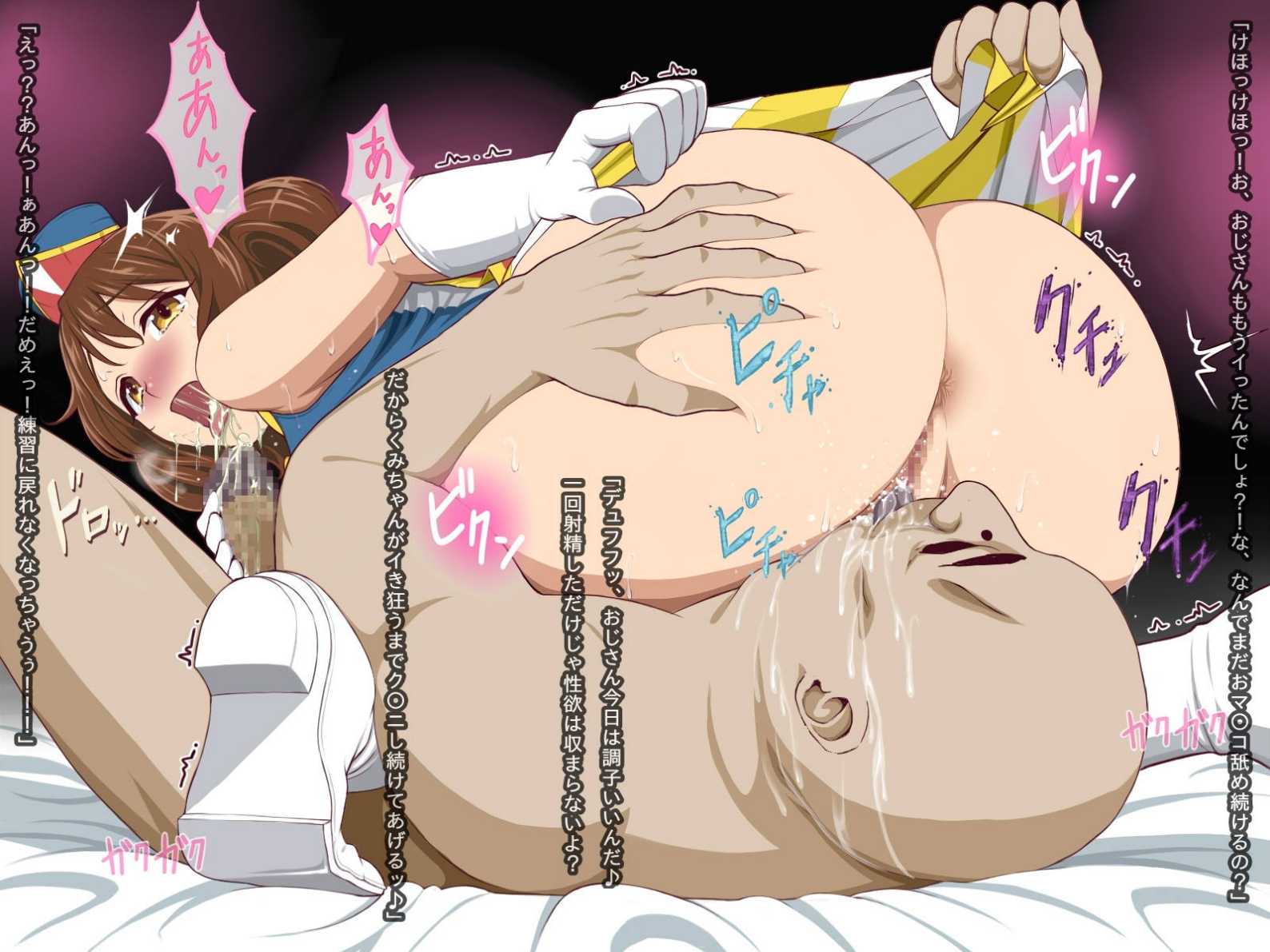
ああんっ♡

あんっ♡

ガクガク

ドクッ...

「えっ？？あんっ！ああんっ！だめえっ！練習に戻れなくなっちゃううー！」



「デユッフ、今日はおじさんのデカチ○ポをしゃぶるだけで許してあげる。
それにしてもくみちゃんのお尻は相変わらず男の種付け意欲をそそるようなデカ桃尻だね」



「あ、そうだ！くみちゃんは吹奏楽部で楽器を吹くより、
下のお口にチ○ポ突っ込まれて喘ぐオス専用の楽器自体になった方がいいんじゃない？笑」

「相変わらずおじさんのチ○ポ大きいでしょ？」

「は、はひひひ」

「なんかね、くみちゃんと会う時は普段勃起する時よりギンギンになっちゃうんだ。……というかくみちゃんを見る度になかな笑



くみちゃんてさお尻が大きいからいつも腰をくねらせて歩いてるでしょ？

その後ろ姿を見る度に

「あつー種付けしなきゃー」っておじさんのチ○ポがギンギンになるんだよね。」

「ほらほらほらっ！もつと奥まで啜えんてしゃぶらないとー」
「は、はひ……へ、へほ、ほんはひはへひふはへはは……」
（は、はい……。でも、そんなに激しくされたら……）」



「くみちゃんは何言ってるのかな？
たかがおマ○コとア○ルを執拗に弄られただけでチ○ポしゃぶりが疎かになるなんて
これから性処理兼種付け用デカ尻肉便器としてやっていけないよ？」

「デユッフ、やっぱりくみちゃんの桃尻を弄りながら、くみちゃんのお口の中に射精するのは気持ちいいなあ♪
いつもより濃いのがたくさん出る♪」



「けほっけほっ・・・く、口の中と喉の辺りが精液でいっぱい・・・」
「ちゃんとごっくんしてくれたんだね♪今頃くみちゃんの胃の中はおじさんの出したザーメンでいっぱいかな笑？
・・・はああ、考えただけで興奮してきた!!!」

「はあはあっ！ーくみちゃんっ！ーくみちゃんっ！ー」

「ぎん今日はフェスの日なのに。。」

はあっ

はあっ

「そんなの関係ないよ！もう我慢できないんだよおっ！ー」

その「スチューム」でパンチラしてる姿見てたらもう犯す事しか考えれないんだよおっ！ー」

「お、おじさんいくらなんでも自分勝手すぎます！ー」

「うるさいっ！ーこの性処理兼種付け用デカ尻肉便器が！ー」

あの恥ずかしい写真をばら撒かれたくなければ今すぐこのデカチ○ポをおマ○コに挿れさせるっ！ー」



「デユラフ、嫌がっている割にはすごい勢いでマン汁が出てるじゃないか！
くみちゃんのおマ○コがおじさんのデカチ○ポを欲してた証拠だな！」

それにどうせあれだろ？

澄ました顔でフェスでマーチングしてる時もパンツを蒸れ蒸れおマ○コに食い込ませて、
カメコのおっさんに写真撮られるたびマン汁垂らしてらんだろ？このドすけべ肉便器め！
「ち、ちがうもん！おじさん頭おかしいよ！おじさんの変態！ド変態！」

ゴクッ
ゴクッ

ヒッ
チッ

ヒッ
チッ



「肉便器のくせに生意気な事を言う口はこうだ！」

「いやーいやーやらあーあんっーあんっー！」

あんっ♡

あんっ♡

レロ

ピチピチ

ゴクゴク

ゴクゴク

ピチピチ

ピチピチ

「たっぷりとおじさんの唾液でくみちゃんの舌をびちょびちょにしてやる！
そしてくみちゃんは好きな人とエッチな気分になってティップキスしようとするたびに思いたすんだ！
小汚い中年おじさんのデカチ○ポをおマ○コに突っ込まれながら無理やりされたくさーいくさーいペロチュウの事をっー！」

「肉便器のくせに生意気な口を聞いたから、今日はおみちゃんがいきつづけてやめてって懇願しても

おマ○コが壊れるまで、赤ちゃん部屋に濃——いザーメンをたっぷり注ぎ込むまで、何回も何回もデカチ○ポで突いてやる——
覚悟しろよお——」

あんっ♡

あんっ♡

ロロ

ピチッ
ピチッ

ゴッ
ゴッ

ゴッ
ゴッ

ピチッ
ピチッ

ピチッ
ピチッ

「やら——やらあつ——おかひくなつてひやう——おかひくなつてひやう——あんっ——あんっ——」



「まったくデカ尻以外も肉付きのいい体しやがって！

おらッ！おらッ！……孕めッ！孕めッ！……

あんっ♡

ああんっ♡

あんっ♡

ピョッ
ピョッ

ビクッ

ビクッ

ゴッ
ゴッ
ゴッ

ピョッ
ピョッ

ピョッ
ピョッ

こんな体のくせに口々スケベな事は何も知らな……ってな感じの澄ました顔で過ごしてるなんて本当にくみちゃんはド変態だなっ！

今度は裸でマーチングしてみなよ！

その場にいる男どもはみんなくみちゃんとの種付けドスケベセックスしたくてうずうずし出すぞ……！

「お、おひはんのほへんはい……ほへんはい……」
「お、おじさんのド変態……ド変態……！」



「ううっ……出る……くみちゃんの赤ちゃん部屋に目掛けてすっごい濃いザーメン出るうう……」
妊娠確定！おじさんの濃いザーメンで妊娠確定うううう……！！
「あんっ！ああんっ……らめええええっ……」

ああんっ♡

あんっ♡

あんっ♡

ビクッ

ロロ

ピチッ

ゴクッ

ゴクッ

ビクッ

ゴクッ

「はあああ、デユッフ、た〜くん出たねくみちゃん♪」

はあッ

はあッ

はあッ

はあッ

はあッ

「あれ？くみちゃん？もじかしておじさんのデカチ○ポで何回も赤ちゃん部屋ノックしたからおかしくなっちゃったかな？
デユッフ、でもこれで分かったでしょ？真正正銘、くみちゃんはおじさんの肉便器だよ。
その顔と声、肉付きのいいおっぱい、大きい桃尻、そしておじさんのデカチ○ポを慰めるだけに股間に付いているおマ○コ！
くみちゃんはいつ何時も、おじさんがセツ○スしたいって言ったら迷わずその体を差し出さないとダメだよ？デユッフ♪」

